

柘植地域

まちづくりだより 第206号

発行 柘植地域まちづくり協議会事務局
三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地
(柘植地区市民センター内)

発行日 二〇一八(平成三十)年二月十五日(木)

電話 四五二八八八〇 FAX 四五二八八八三

千五二九一四〇二

柘植地域俳句コーナー
春風や

ピアスの少女と
ヴィヴァルディ
桑原智代美

みらいづくり塾 ワークショップでまちづくり



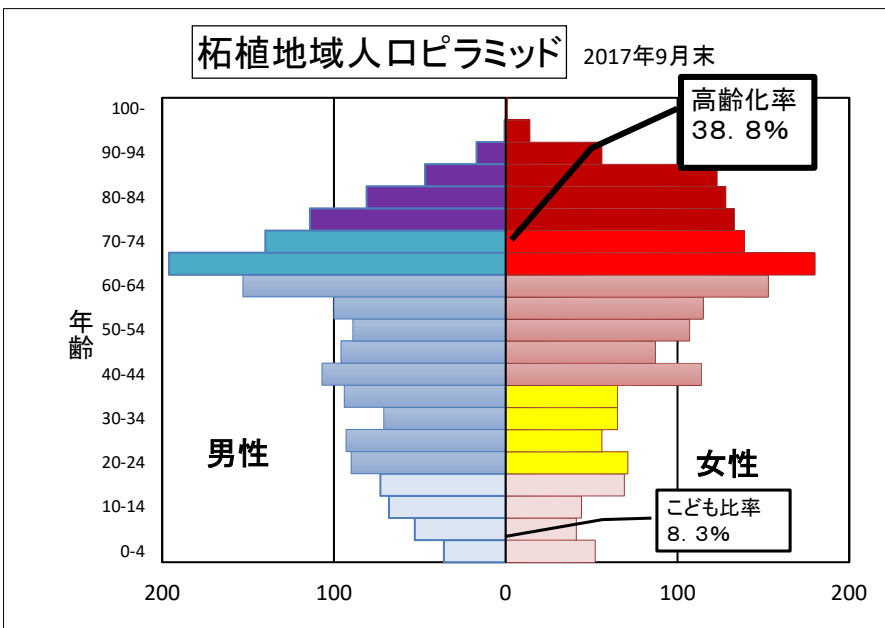
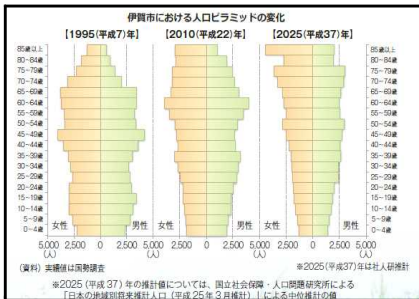
1月27日(土)午後、市民センターで、柘植の若者(次世代)ワークショップが三重県・伊賀市の後援を受け開催されました。

年末から参加者の募集を始めたところ、24名の応募者がありました。当日は体調やその他の事情で16名の参加となりました。

この事業は、三重県が「地域存続のために、行動していける地域づくりや人づくりを」ということで広く参加地域を募集。伊賀市からは当地域のみでしたが、名張市や亀山市などの県内9つの地域が本研修を受け、そのまとめとして各地で企画しているものです。

参加者は、まずは現在の状況共有ということ、伊賀市や柘植地域の人口推移・高齢化の状況など、それぞれの現状や課題についての説明を受けました。

伊賀市の人口は、当初の予測よりも早いペースで減っていること、高齢者の単身世帯は、男が1に対して女3の割合であること



など、『伊賀市総合計画』の資料に基づいて市職員から説明を受けました。

柘植地域においては、10年前には約4000人いた人口がいまは約3500人とな



続いて第2のテーマ「その解決策」ということでも約20分話し合いました。たとえば、これまでのこだわりや

そうした前提をふまえて、参加者は4人ずつ、「えんたくん」を使って、テーブルを作り、第1のテーマである「日常生活での不安や悩み」に取り組みました。約20分、さまざまな観点から、みずから感じる不安や悩みを出し合いました。たとえば農林業を生業とすることの難しさ、地域(区・組等)での用事の多さ、高齢社会への不安などが出されました。

さらに先となれば地域を維持できるのか...? 不安に立ち向かうことが必要な時代です。



参加者の「いろいろな観点から話し合う機会に恵まれました。今日話したことが何かのきっかけになればいいなと

まさに伊賀市がめざす「小規模多機能自治」であり、住民自治協議会が核となつて地域の課題解決に取り組み、地域のつながりを充実させていくことが必要です。そのためにも地域活動の核となる人材を育てていくことも重要になります。

慣習を越えて価値観を変えることや行事などの合理化や取捨選択、プロデューサーや核となる人の必要性などが出されました。

参加者の感想には、「このような機会があつてよかった。」「もっと話し合う機会が必要。」「地域に核となる人やモノを作り、できるだけ幅を広げてつながりあつていきたい。」「というように声が目立ちました。

これからの地域について考えるべき時代になっています。本気になって、ともに10年先を考えましょう



16名の参加者のみなさん(前2列) 後ろは三重県行政、伊賀市行政、関連スタッフです

思います。」「という声にあるように、このワークショップのめざすところを、柘植地域内各区各層に広げていくことがますます必要になってくると考えています。

メリー、クリスマス!

教育・文化部会

12月24日(日)午後、恒例のクリスマスコンサートが市民センターで開かれ、多くの皆さんがイブのひとときを楽しみました。

オープニングでは、サンタの登場と共に出演者全員が登場。柘植青葉台区の音楽グループ・グリーンリーブスの歌と演奏でクリスマス気分が盛り上がり、続いて藤岡誉さんのギターと歌、篠笛に乗せてマジョンナさんの見事なマジックの数々を楽しみました。

全員にサンタクローズからのプレゼントがあり、参加者はニコニコ顔。

最後には全員で手製のマラカスを持って、シングルベルを大合唱。市民センターいっぱい温かくなり盛り上がり、コンサートは終了しました。



カルタ、緊張したけど良い思い出!

教育ボランティア

第4回「柘植小学校かるた大会」は1月20日(土)の午前に行われました。体育館に全校生徒と先生方、ボランティア全員が集合し大判の「柘植のホント!かるた」を使って、かるた取りを行いました。6年生の読み上げで、体育館に並べられたかるたを混合の班ごとに取り合い枚数を競いました。その後教室に分かれて班対抗戦を行いチーム優勝を決め、優勝チームには中日新聞から賞状が贈られました。

「皆と一緒に楽しくかるた取りができ、来年もやってほしい」との小学生の声。読み手の6年生は、「緊張したけれど、小学校の良い思い出になった」と話していました。



健康づくり講演会 健康やかさと治癒力

健康・福祉部会

1月28日(日)午後、19人の方に参加していただきました。

ペアになつて、手で体をさすったり、もんだり、皆さん「あい」と口々に云っていました。

寒さで足や手が冷えていましたが、藤田先生の軽妙なおしゃべりで楽しく参加できました。

「按摩功の手引き」と「樹林気功の手当て法」というイラストで分かり易く解説したプリントを頂きました。

手は頭の中の血液をうまく流してくれるので、手をもんだり、さすったり、他の人の手や足、体をさすったり、もんだりしてよろこんで頂くのも良い事です。今日習った事を継続していく事が大事です。1時間半があつという間に終わって心と体が癒されました。





第38回となつた前川解放文化祭。主催は前川父母の会。2月11日(日)午前、いがまち人権センターの会場に保育園児から高校生までみなさんが、大勢の見守る中、日頃の取り組みや思いの発表を次々に展開していきましました。

伊賀市長、教育次長、各部長をはじめ、まち協や各区長、また県内関係団体等が見学されました。

冒頭の来賓あいさつでは、高橋春光前川区長が大河ドラマ「西郷どん」を引き合いに、有名な「天を敬い、人を愛す」の精神で差別社会と向き合うことの大切さを訴えました。

過去に比べ、少子社会の影響で子どもたちの人数は少ないですが、地区内外にかかわらずにみんなで部落解放をめざそうとする熱意の濃いものになっています。

プログラムの最後には、父母の会の

「呼びかけ」があり、子育て中の保護者の気持ちが発表され、数字の調査だけでは測れない「思い」の実態にも参加者は耳を傾けていました。

「津市白山町へ」
「人権のまちづくり」に学ぶ

12月10日(日)、まちづくり協議会人権・同和部会のフィールドワークとして、16人の参加のもと、津市白山町の白山市民会館と八対野教育文化会館を訪れ、人権を切り口にした白山町での現状や取り組み、今後に向けたお話を聴かせていただきました。

1995年に市民会館と中学校に2度も差別落書きがされるといふ差別事件がありました。それがきっかけになり「つながり」の大切さを実感する中で反差別の意識が高まったことから、



反差別連帯会議(スカツス)は、組織されました。同時に「ゆずり葉の会・父親の会」とい

う母親・父親の会も組織されました。(ゆずり葉は新しい葉が出てくると古い葉を落とすことから、次の世代に思いを受け継ぎたいという願いが込められています。)

また広域合併された津市という状況下、同じ市内に住む青年として思いを共有し、ともに活動したいと「津市反差別青少年友の会」(津友)を組織しました。

白山町では各種組織・団体が連携して人権のまちづくりが進められています。

私たちのいがまちでも3地域が協力して取り組みを進めております。

☆☆事務局だより☆☆

▼「これまでの10年とこれからの10年は違う」：おとし頃からよく使われるキーワードです。▼1月27日の次世代ワークショップ、柘植地域にはすばらしい方々が大勢いることがわかりました。▼まずは実態を出し合い知ること。議論の土台を共有するところから考えなければ、課題解決策は一致点を見出せないでしょう。そのあたりの元データは、以前に全戸配布された『伊賀市総合計画』に掲載されています(市HPで確認できます。)

▼これまでも同じ地域システムのままだと、一人ひとりの肩のしかかってくる課題や役目がここ数年で急速に重くなっています。区も組・班もまずは「つながり」づくり、そして話し合いです。(西田方針)



お知らせ 女性部会第6回ひな人形展
2月28日〜3月4日 チラシ回覧中